

# 取扱説明書

## ティルト & リクライニング車いす アクトモア ネットティ ビジョン

このたびは、本製品をご利用いただき、まことにありがとうございます。  
この「取扱説明書」には、本製品を安全にお使いいただくための注意事項  
や使用方法などを記載しています。

- 本製品をお使いになる前に、必ずこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、  
正しく安全な取扱方法を理解してください。
- この「取扱説明書」はお読みになった後も、いつでも見られる場所に保管してください。
- 本製品は、改良などにより「取扱説明書」の内容と一部異なる場合もあります。
- ご不明な点がありましたら、当社までお問い合わせください。

### 表示とその意味

この取扱説明書では、次のような表示を記載しています。よく読んで内容を十分理解した上で、  
ご使用ください。

製品の取り扱いに際して生じる危険を未然に防止するため、安全上の注意事項をその危険の  
大きさの程度に応じて、次のように分類して表示しています。

表 示	意 味
 危険	誤った取り扱いをすると、人が死亡し、または重傷を負う内容について 記載しています。
 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡し、または重傷を負う可能性がある 内容について記載しています。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性がある内容、 および物的損害が発生する可能性のある内容について記載しています。

株式会社フロンティア

# 1 ご使用上の注意

## ⚠ 危険

【死亡または重傷を招くもの】

- エスカレーターおよび動く歩道では使用しないでください。  
介助者がいる場合でも、転倒などにより重大な事故につながるおそれがあります。
- 急な坂を下る場合は、後ろ向きで下がってください。  
前向きで下ると使用者が転落する可能性があります。
- 車道を通らないでください。  
車いすは歩行者として扱われます。車道を通らず、必ず歩道、または道路の右側を走行してください。
- 定期的に圧迫を開放してください。  
本製品のクッションは効果的に体圧を分散しますが、長時間同一姿勢の体位を続けると、床ずれの原因となります。
- スピードを出さないでください。  
スピードが出ているときの急カーブ、急停止は転倒するおそれがあります。
- 溝や踏切の線路での落輪、キャストの挟み込みには十分注意してください。  
踏切りを横断の際は、車輪・キャスト輪をレールに対して直角にして走行してください。斜めに進入するとレールの溝にはまるおそれがあり危険です。



## ⚠ 警告

【死亡または重傷を招く可能性があるもの】

- 取り扱いが理解できないと思われる方が使用する際には、十分注意してください。  
取扱説明書に書かれた内容が理解できないと思われる方（幼児や認知症の方など）が使用する場合には、保護者、介護者などが必ず取扱説明書に従った使用を確保し、本人による製品の誤動作、その他誤った使用方法による事故を未然に防いでください。
- 医師やリハビリテーション専門スタッフなどに本製品の使用が危険と判断された場合は使用しないでください。
- 使用する前に各ブレーキ（足踏み・駐車用・制動用ブレーキ）の利きを必ず確認してください。
- アームサポートやフットサポートは必ず取り付けて使用してください。  
走行中、体が不安定になり危険です。
- 本製品から乗り降りするときは、必ず左右の主輪に足踏みブレーキまたは駐車用ブレーキをかけてください。  
車いすが動いて事故につながる可能性があります。
- 乗り降りの際には駐車用ブレーキに体重をかけないでください。  
レバーが破損・変形し、転倒するおそれがあります。
- フットサポートに立ったり、直接体重をかけないでください。  
破損したり、バランスを崩し倒れるおそれがあります。
- 転倒防止バーは常に使用してください。特に、段差を乗り越える際は、転倒防止バーを座面下に収納し、通過後には元の位置に戻し忘れないよう、注意してください。  
転倒防止バーを手前に引いたまま段差を乗り越えると、転倒防止バーや車体が破損するおそれがあります。
- 本製品を駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。  
坂道などの傾斜がある場所では、足踏みブレーキまたは駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒などの事故につながるおそれがあります。
- 脚部の取り外し・取り付け・角度調整は、必ず足踏みブレーキまたは駐車用ブレーキをかけて行ってください。
- 移乗や、座面角度調整・背もたれ角度調整をする際には、必ず足踏みブレーキまたは駐車用ブレーキをかけ、転倒防止バーを手前に引き出してください。
- 本製品を物品運搬や歩行の補助具としてなど、車いす以外の目的で使用しないでください。
- 本製品の使用者最大体重（100kg）を守ってください。
- 本製品は1人乗り用です。2人以上で座ったり、動かさないでください。
- バックサポートに重い物などをかけないでください。  
転倒するおそれがあります。
- 使用者が乗っている状態で本製品を持ち上げないでください。

## ⚠ 注意

【軽傷または中程度の傷害を招く可能性があるもの】

- 乗る前に主輪・キャスト・足踏みブレーキまたは駐車用ブレーキなどのネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。
- フットサポートは、床面より5cm以上空けた状態で使用してください。
- ヘッドサポートを持って座面角度調整・背もたれ角度調整をしたり、移動をしないでください。部品が破損するおそれがあります。
- ヘッドサポートやアームサポート、フットサポートを持って本製品を持ち上げないでください。外れてケガをするおそれがあります。持ち上げる際には車体（座面下）をお持ちください。
- 走行中、足がフットサポートから落ちないようにしてください。
- 走行中、体を乗り出さないでください。走行の安全を損ない危険です。
- 使用者が本製品に完全に座れているか確認してから走行してください。体の一部や衣服が主輪に挟まれていると危険です。
- アームサポートを下げる時、手や衣服を挟み込まないように、注意してください。
- 主輪を握って本製品の操作をしないでください。指を挟みケガをするおそれがあります。
- 主輪のスポーク部に指を差し込まないでください。ケガをするおそれがあります。
- 分解や改造をしないでください。強度や耐久性が低下し、危険です。
- 本製品を火気に近づけないでください。座席のシートが燃えたり、熱くなった金属部でやけどをするおそれがあります。
- ナット、ネジなどの細かい部品を紛失しないよう注意してください。

## 2 製品の特長

- おしりや太ももだけでなく背中にも体圧を分散できる座面角度調整（ティルト機構）と、背もたれ角度調整（リクライニング機構）で、安定した座位を保持できます。
- フットサポートの調整機能、アームサポートの高さ、座奥行調整機能、ヘッドサポートの高さ・角度・奥行調整機能付きで、使用者の体に合わせた調整が可能です。
- 体のS字ラインを保ちやすい立体的なバックサポートクッションと、背張り調整のダブルの効果で、より安定した姿勢が保てます。また、体に合わせてフラットなバックサポートクッションや円背用のバックサポートクッションも選ぶことができます。
- 介助者が操作しやすい足踏みブレーキと駐車用ブレーキ、転倒防止バーを標準装備しています。

# 3 各部の名称



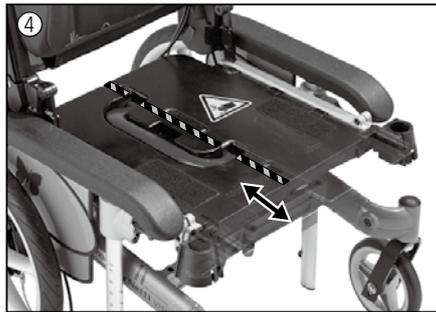
# 4 適合調整

## 1. シート(座面)の奥行き調整のしかた

シート(座面)の奥行きは35~42.5cmまで調整が可能です。

フレーム側面に目安となる目盛りがついています。

- ① 専用クッションとエレベータリング式フット・レッグサポートを取り外します。
- ② 足踏みブレーキまたは駐車用ブレーキを両輪にかけてください。
- ③ フレーム側面にあるネジを左右それぞれゆるめます。
- ④ シート(座面)をスライドさせて、身体寸法に合わせて座奥行きを合わせます。赤いラインを越えてスライドさせないでください。
- ⑤ 座奥行きが決まったら、ネジをしっかりと固定し、専用クッションを戻します。



## 2. フットサポートの調整のしかた

### フットサポートの高さ調整

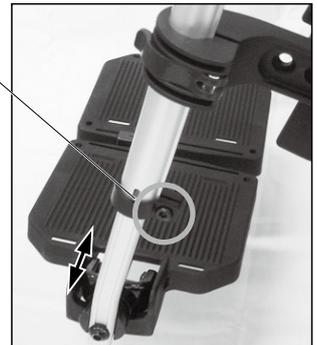
フットサポートは無段階で高さを調整することが可能です。

- ① 高さ調整ネジをゆるめます。
- ② フットサポートを上下にスライドさせて、適切な高さに合わせてください。
- ③ フットサポートがずれないように、しっかりとネジを締めてください。

#### ⚠注意

フットサポートは床面高さより5cm以上、上げた状態で使用してください。

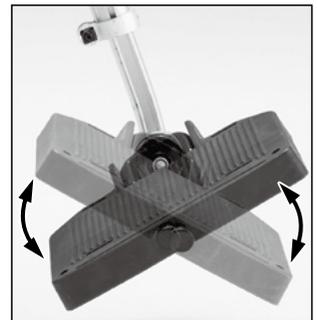
高さ調整ネジ



### フットサポートの角度調整

フットサポートは無段階で角度を調整することが可能です。

- ① フットサポートの横にあるネジを六角棒レンチを使って反時計回りに回してゆるめます。
- ② フットサポートの角度を調整し、ネジを時計回りに回して締めて固定します。



### フットサポートの固定と取り外し

左右のフットサポートをつなげることで、足のずれ落ちを防ぎます。

- ① 右足側のフットサポートのくぼみを左足側のボルトに合わせます。
- ② 赤いスライドカバーをつま先方向にスライドさせて固定してください。取り外すときは、スライドカバーをスライドさせてくぼみにはまっているボルトを外してください。

赤いスライドカバー



### 3. カフサポート(ふくらはぎあて)の調整のしかた

#### カフサポート(ふくらはぎあて)の高さの調整

- ① カフサポート(ふくらはぎあて)の高さ調整レバーのロックを外します。
- ② 使用者の体に合わせて高さを合わせた後、高さ調整レバーを元の位置に戻すことで固定できます。

※高さ調整レバーが固い場合、カフサポートアダプターの裏にあるねじを六角棒レンチでゆるめてください

高さ調整  
レバー

カフサポート  
アダプター

カフサポート  
(ふくらはぎあて)

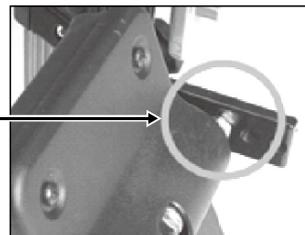


#### カフサポート(ふくらはぎあて)の奥行き調整

カフサポート(ふくらはぎあて)の奥行きは4段階で調整可能です。

- ① カフサポートアダプターの外側にあるナットを反時計回りに回してゆるめて取り外します。
- ② カフサポート(ふくらはぎあて)を取り外し、取り付け位置を変更し、ナット【A】をおさえながら、取り外したナットを時計回りに締めて固定します。

【A】



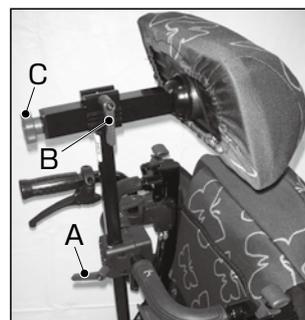
### 4. ヘッドサポートの調整のしかた

#### ヘッドサポートの高さ・奥行き・角度の調整

- ① Aのネジをゆるめて、ヘッドサポートの高さを調整します。
- ② Bのネジをゆるめて、ヘッドサポートの奥行きを調整します。
- ③ Cのネジをゆるめて、ヘッドサポートの角度を調整します。
- ④ それぞれ調整をしたら、ネジを締めて固定します。

※この順序と異なる順序で調整することも可能です

**△ 注意** ヘッドサポートを持って座面角度調整・背もたれ角度調整をしたり、車いすの移動を行わないでください。  
部品が破損する原因となります。



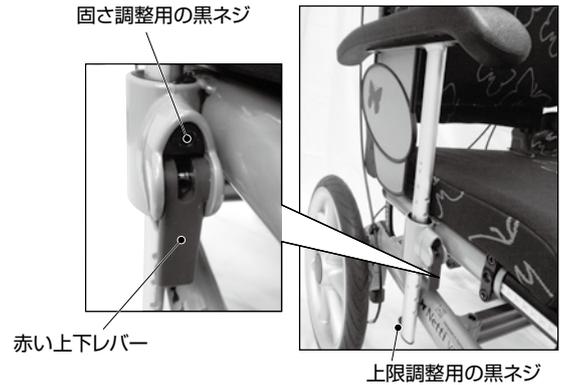
## 5. アームサポートの調整のしかた

### アームサポートの高さ調整

アームサポートは18~34cm(8段階)まで調整が可能です。  
また、専用クッション面まで下げることができます。

- ① アームサポート下部にある赤い上下レバーのロックを外します。
- ② 使用者の体に合わせて高さを合わせた後、赤い上下レバーを元の位置に戻すことで固定できます。

※赤い上下レバーが固い場合、赤い上下レバーのすき間にある  
固さ調整用の黒ネジを六角棒レンチでゆるめてください



### ポイント

アームサポート下にある上限調整用の黒ネジを六角棒レンチで調整することにより、一定の高さより上がらないように設定できます。

### ⚠ 警告

- アームサポートの高さを調整する際は、必ず足踏みブレーキまたは駐車用ブレーキをかけた状態で行ってください。本製品が勝手に動き出して大変危険です。
- アームサポートを持って、本製品を持ち上げないでください。アームサポートが外れ、ケガをするおそれがあります。

### ⚠ 注意

- 使用前に、アームサポートが確実に固定されていることを確認してください。
- アームサポートに重いものをのせるなど、過度な荷重をかけないでください。
- アームサポートを上下させる際、衣服や手を挟み込まないよう注意してください。

### アームサポートの取り外しかた

ティルト&リクライニングを傾けてボードを使った臥位移乗のときなどアームサポートを取り外して使用することができます。

- ① 上限調整用の黒ネジを取り外します。
- ② アームサポート下部にある赤い上下レバーのロックを外します。
- ③ アームサポートを上引き抜きます。

### ⚠ 注意

アームサポートを一番下まで下げた状態でティルト機能を使うと主輪にぶつかるため使用できません。

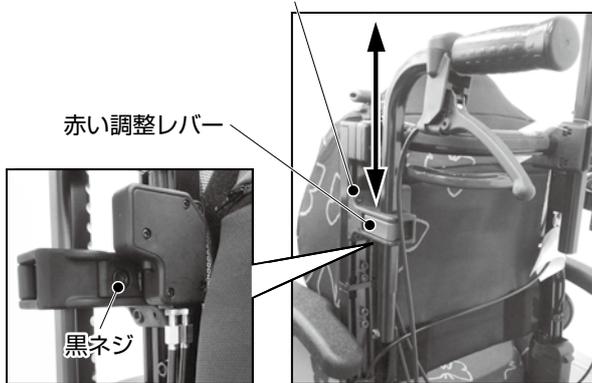
## 6.手押しハンドル(グリップ)高さの調整のしかた

- ① 手押しハンドル(グリップ)の下部にある赤い調整レバーのロックを外します。
  - ② 手押しハンドル(グリップ)を上下に動かし、高さを調整してください。(14段階調節)
  - ③ 位置が決まったら、赤い調整レバーで固定してください。
  - ④ ①～③の手順で、もう片方の手押しハンドル(グリップ)も調整します。
- ※赤い調整レバーが固い場合、内側にある黒いネジをゆるめてください

### ポイント

手押しハンドル(グリップ)固定ベースも黒ネジをゆるめることで高さの調整ができます。

手押しハンドル(グリップ)固定ベース



## 7.バックサポートの調整のしかた

### 張り調整のしかた

- ① バックサポートの裏面カバーをめくります。
- ② 6本のベルトは、それぞれ張り調整ができるので、使用者の背中中の形状に合わせて、ベルトを張ったりゆるめたりしてベルトを固定します。
- ③ バックサポートの裏面カバーを戻します。

### 高さ調整のしかた

#### 【立体背シート/円背用背シートのみ】

- バックサポートの高さを調整することができます。
- バックサポートを外し、使用者の身体状況に合わせて高さを調整し取り付けてください。
- 円背用背シートは穴のあいている部分を、背骨の突出している位置に合わせてセットしてください。

### ポイント

それぞれのシート裏面にある数字(1～6)をめやすに取り付けることができます。



円背用背シート(中材)



# 5 使用前の準備と点検

## ご使用前に以下の点を確認してください

### ① 制動用ブレーキの確認

- 制動用ブレーキを握り、ブレーキが利くこと。
- ブレーキケーブルがたわんでいないこと。  
ブレーキの利きが悪いときには、当社にご連絡ください。

### ② 足踏みブレーキまたは駐車用ブレーキの確認

- 足踏みブレーキを踏み込む、または手元ブレーキを引いて主輪がロックすること。  
ブレーキの利きが悪いときには、当社にご連絡ください。

### ③ 転倒防止バーの確認

- 転倒防止バーが固定していること。  
転倒防止バーがぐらつく場合は、当社にご連絡ください。

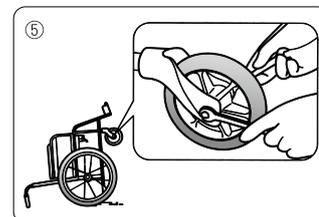
### ④ フットサポートの高さの確認 (P5「フットサポートの高さ調整」参照)

### ⑤ キャスタのネジのゆるみの確認

- キャストのネジがゆるんでいないこと。  
ゆるんでいるときは、増し締めをしてください。

### ⑥ 主輪のゆるみの確認

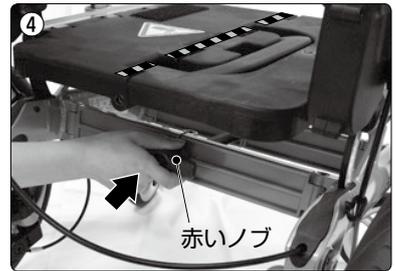
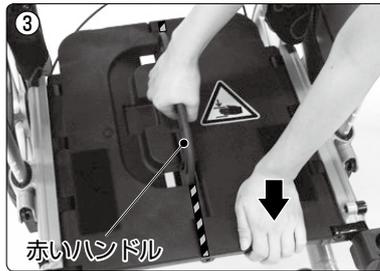
- 主輪にガタつきがないこと。  
ガタついているときは、ただちに使用を中止し、当社にご連絡ください。



# 6 使用方法

## 組み立てかた

- ① 足踏みブレーキまたは駐車用ブレーキを両輪にかけます。
- ② 車いすを左右に少し広げます。
- ③ シート（座面）上にある「赤いハンドル」を持ちながら、片手を座面に置き下に押し、車いすを開きます。
- ④ 後方にまわり、シート（座面）の裏側にある「赤いノブ」を奥側に押しします。



- ⑤ 本体の左右にあるティルト&リクライニング操作フレームの接続部にしっかりと差し込み、赤い「固定用レバー」を本体側に押し、固定されていることを確認してください。

※ 接続部に差し込みにくい場合は、赤い「固定用レバー」が手前側に向いていることを確認してください。車いす本体側に向いていると差し込めません

- ⑥ ヘッドサポートを取り付けます。  
(P6「4.ヘッドサポートの調整のしかた」参照)
- ⑦ エレベーター式フット・レッグサポートを取り付けます。  
(P11「エレベーター式フット・レッグサポート」参照)
- ⑧ アームサポートの高さを体に合わせて調整してください。  
(P7「5.アームサポートの調整のしかた」参照)
- ⑨ バックサポートと専用クッションをセットします。  
専用クッションは凹凸がある方を手前にして設置してください。  
(P8「7.バックサポートの調整のしかた」参照)



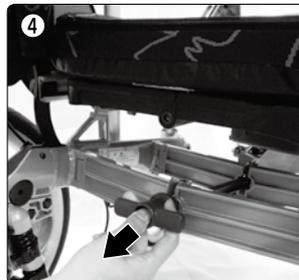
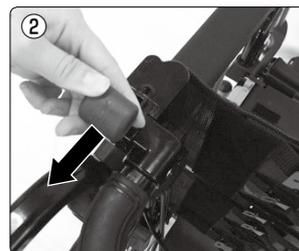
### △ 注意

- 座面中央の折れ目に手や指をかけて押さないでください。  
手や指が挟まってケガをするおそれがあります。
- ティルト&リクライニング操作フレーム設置の際は本体フレームとの間に指を挟まないよう注意してください。

## たたみかた

- ① 専用クッションとバックサポートを取り外します。
- ② ヘッドサポートを取り外して、ティルト&リクライニング操作フレームにある左右の赤い「固定用レバー」の裏側にあるプレートをつまみながら手前に引いてください。ロックが解除されティルト&リクライニング操作フレームを取り外せます。
- ③ エレベーター式フット・レッグサポートを取り外します。
- ④ シート（座面）の裏側にある「赤いノブ」の中心部を押しながらか手前に引きます。
- ⑤ シート（座面）上にある「赤いハンドル」を持ち上げてたたみます。

※ 赤いハンドルが持ち上がりにくい場合は、④の動作を再度行ってください



## エレベーター式フット・レッグサポート

### スイングアウトをするとき

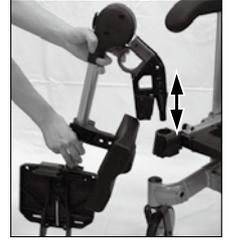
- ① 赤い丸型のレバーをにぎりながらロックを解除します。
- ② エレベーター式フット・レッグサポートを外側に回転させます。

赤い丸型のレバー



### 取り外すとき

- ① フットサポートをたたみます。
  - ② 赤い丸型のレバーをにぎりロックを解除します。
  - ③ エレベーター式フット・レッグサポートを外側に回転させ両手で持ちながら垂直に引き上げます。
- ※カフサポートが一定の位置より高い位置に設定されている場合、レッグサポートが90度だと、干渉しレッグサポートが外れなくなります



### 取り付けるとき

- ① エレベーター式フット・レッグサポートを両手で持ちながら本体に垂直に差し込みます。
- ② エレベーター式フット・レッグサポートを内側に回転させます。
- ③ エレベーター式フット・レッグサポートが斜めになっていないことを確認し、下へ押し込むとロックがかかり固定されます。

### 角度の調節(エレベーター機構)

エレベーター式フット・レッグサポートの角度は5段階(90度から170度まで)の調節が可能です。

#### 【角度を上げるとき】

- ① 角度調整ボタンを押しながら、レッグサポートを持ち上げます。
- ② 5段階の中から角度を決めて、しっかりとレッグサポートが固定されていることを確認してください。

#### 【角度を下げるとき】

角度調整ボタンを押しながら、レッグサポートを下ろしてください。

※レッグサポートを90度を下ろす場合は、角度調整ボタンを押してロックを解除し、丸ボタンを押しながら下ろしてください

角度調整ボタン 丸ボタン



#### ⚠ 警告

- エレベーター式フット・レッグサポートの操作時は、必ず足踏みブレーキまたは駐车用ブレーキをかけて転倒防止バーを手前に引いた状態で行ってください。
- 本製品に使用者が乗っている状態でフットサポートを調整する場合は、足を挟み込んだり、股関節や膝関節の可動域に支障をきたさないよう十分注意して行ってください。
- 走行する前に、フットサポートが確実に固定されていることを確認してください。
- レッグサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。

#### ⚠ 注意

- エレベーター式フット・レッグサポートを取り付けた際は、必ず固定されたことを確認してください。
- レッグサポートを90度を下ろす際、指を挟まないように気をつけてください。
- フットサポートは床面より5cm以上空けた状態で使用してください。



## ヘッドサポート

身体状況に合わせてオプションのヘッドサポート(Aタイプ、Cタイプ)を選択できます。

※標準仕様のみヘッドサポートカバー付き

### 取り外すとき

- ① ヘッドサポートの高さ調整ネジをゆるめます。
- ② ヘッドサポートの支柱を上引き抜きます。

### 取り付けるとき

- ① ヘッドサポートの支柱をアダプターに差し込みます。
- ② ヘッドサポートの高さを決めて、高さ調整ネジを締めて固定します。

高さ調整  
ネジ



## ブレーキ

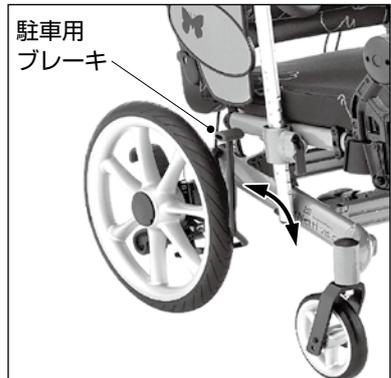
### 駐車用ブレーキの使いかた

#### 【ブレーキのかけかた】

手元ブレーキのレバーを押し込むとロックがかかります。  
左右それぞれの手元ブレーキをロックしてください。

#### 【ブレーキの解除のしかた】

手元ブレーキを後輪側に引くとロックは解除されます。



駐車用  
ブレーキ

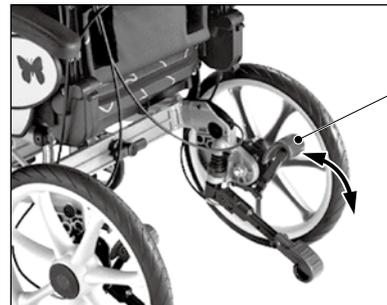
### 足踏みブレーキの使いかた

#### 【ブレーキのかけかた】

足踏みブレーキを踏み込むとロックがかかります。  
左右それぞれの足踏みブレーキをロックしてください。

#### 【ブレーキの解除のしかた】

足踏みブレーキを、上に跳ね上げるとロックは解除されます。



足踏み  
ブレーキ

- △ 注意**
- 車いすを使用する前には、必ず足踏みブレーキまたは駐車用ブレーキの利きを確認してください。ブレーキの利きが悪い場合は、当社へ連絡してください。
  - 坂道などの傾斜がある場所やすべりやすい床面では駐車しないでください。
  - 足踏みブレーキまたは駐車用ブレーキの作動方向以外に力を加えないでください。変形・破損する恐れがあります。
  - 車いすに乗り降りする際は、駐車用ブレーキのレバーに体重をかけないでください。

## 転倒防止バー

車いすが後方に転倒するのを防止します。

転倒防止バーは段差を乗り越える場合以外は常に使用してください。

### 使用するとき

- ① 転倒防止バーを手前に引き、180度回転させて向かせます。
- ② 「カチッ」と音がし、転倒防止バーが固定されていることを確認してください。

### 使用しないとき

転倒防止バーの主輪側にある赤い丸レバーを引きながら、転倒防止バーを座面下の奥側に向けて180度回転させてください。

- △ 注意**
- 5cm以上の段差を乗り越える場合、転倒防止バーを使用したままではキャストが浮き上がりません。必ず転倒防止バーを奥側に向けてから段差を乗り越えてください。
  - 段差の乗り越えが終わったら必ず転倒防止バーを元に戻してください。

赤い丸レバー



## 角度調整のしかた

### 背もたれ角度調整(リクライニング機構)

背もたれ角度調整(リクライニング機構)は90度~110度の範囲で行えます。

- ① ティルト&リクライニング操作フレームの右側にあるリクライニングレバーを握り、フレーム横にある目盛りを目安にしながら調整してください。
- ② レバーを離すと角度が固定されます。

#### △ 警告

背もたれの角度調整をする際は、必ず足踏みブレーキまたは駐車用ブレーキをかけ、転倒防止バーを手前に引いた状態で行ってください。

### 座面角度調整(ティルト機構)

座面角度調整(ティルト機構)は前傾2度~後傾30度の範囲で行えます。

- ① ティルト&リクライニング操作フレームの左側にあるティルトレバーを握り、フレーム横にある目盛りを目安にしながら調整してください。
- ② レバーを離すと角度が固定されます。

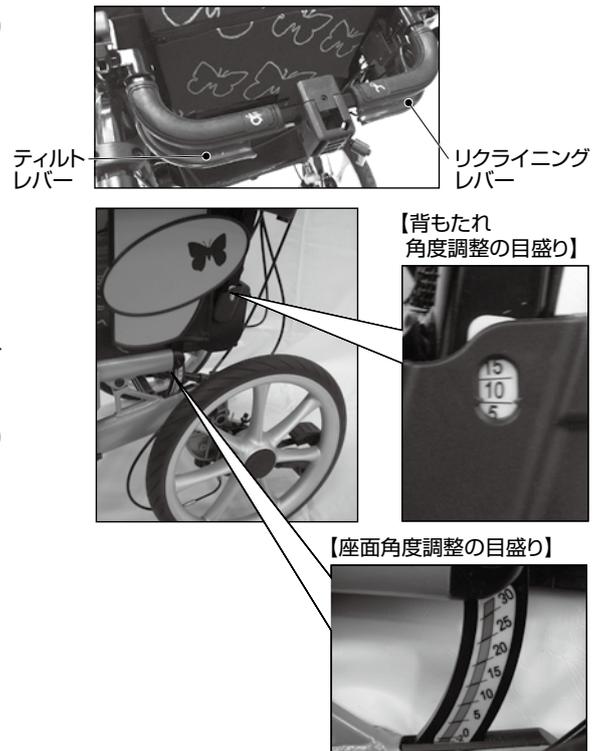
#### △ 警告

座面の角度調整をする際は、必ず足踏みブレーキまたは駐車用ブレーキをかけ、転倒防止バーを手前に引いた状態で行ってください。

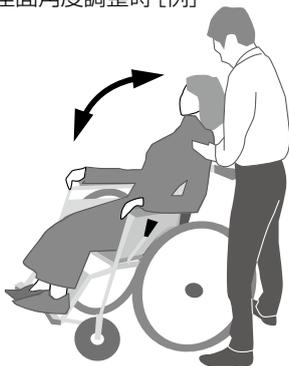
### ポイント

背もたれ角度調整と座面角度調整は同時に行わず、角度を倒すときは

- ① 座面角度調整(ティルト機構)
  - ② 背もたれ角度調整(リクライニング機構)
- の順番で行うことをおすすめします。  
また、角度を戻すときは、
- ① 背もたれ角度調整(リクライニング機構)
  - ② 座面角度調整(ティルト機構)
- の順番で行うことをおすすめします。  
ただし使用者の状況や使用の目的によって、操作は異なります。



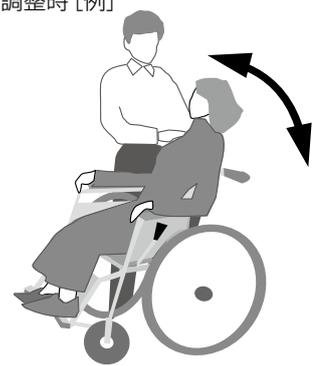
座面角度調整時 [例]



※側方から操作ができない場合、使用者に声かけするなど配慮してください



背もたれ角度調整時 [例]



△ 注意 座面の角度がマイナスになっている状態から座面の角度を調整する場合、重く感じる場合があります。

## 移乗のしかた

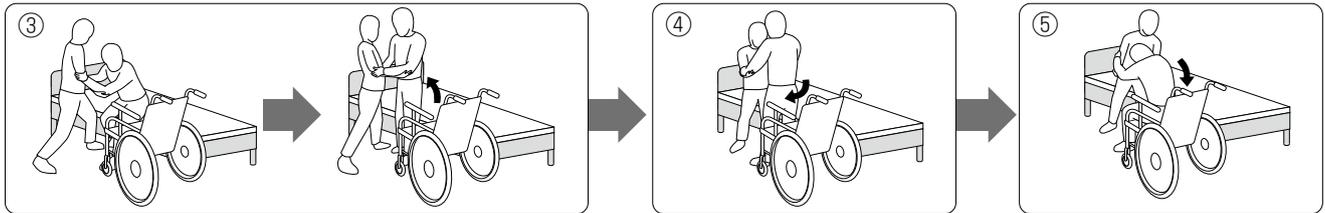
下記の方法は様々な移乗方法の中のひとつです。使用者の身体状況や介助者の能力に合わせて、適切な移乗方法を選択してください。

- 移乗動作の準備をしてください。
- ① 足踏みブレーキまたは駐車用ブレーキを両輪にかけてください。
- ② 乗り移る側のアームサポートを下げ、エレベーター式フットレッグサポートは取り外すかフットサポートを上げてスイングアウトしてください。

### 介助者と車いすに乗り移るとき（立位移乗が可能な場合）

※車いすから降りるときは逆の手順で行ってください

- ③ 介助者が相手の身体状況に合わせて、体を支えながら立ち上がらせます。
- ④ 移乗先の車いすへおしりを向けます。
- ⑤ 車いすのシートの奥まで座れるように、ゆっくりと腰を下ろしてもらいます。
- ⑥ アームサポート、エレベーター式フットレッグサポートを元に戻し、固定していることを確認してください。
- ⑦ フットサポートを下ろして両足をのせます。



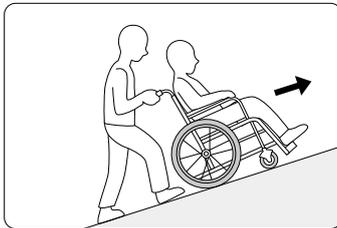
- ⚠ 警告 ● 車いすが動き出し大変危険ですので、必ず足踏みブレーキを掛けてください。
- 危険ですのでフットサポートの上に乗らないでください。

- ⚠ 注意 アームサポートやエレベーター式フットレッグサポートに戻すときは、衣服や手を挟み込まないように注意してください。

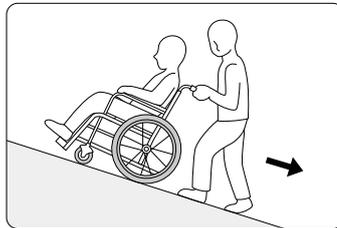
## 外出時の注意点

車いすの安全な使い方は、“ゆっくり”“確実に”が基本です。

### 坂道

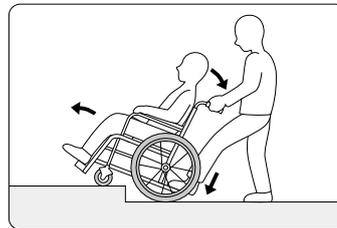


〈上り坂〉  
押す人は体を少し前に倒して、押し戻されないよう、一歩ずつしっかりと押します。



〈下り坂〉  
坂を下るときは制動用ブレーキを軽く使いながら、後ろ向きに一歩ずつ下ります。

### 段差のある場所



〈上がるとき〉  
ティッピングレバーを踏んでキャストを上げて進み、続いて主輪を押し上げます。

〈下るとき〉  
後ろ向きでまず主輪をおろし、ティッピングレバーを踏んでキャストを上げたまま後進し、ゆっくりと下ろします。  
※ティッピングレバーを使用する際は、ティルトリクラインングの角度を戻してからご使用ください

- ⚠ 注意 転倒防止に十分配慮してください。(転倒防止バーのご利用や、車いすの後方を支えるなどの方法があります。)

## 7 お手入れの方法

- ヘッドサポート【Dタイプ】枕形状カバー／バックサポートカバー／専用クッションカバーは洗濯できます。裏返して洗濯してください。
- 車いすは湿気に弱いので、水のかかる場所などに放置しないでください。
- フレームはときどき乾いた布でふいて、汚れを除いてください。
- ヘッドサポートやバックサポート、専用クッションの中材が汚れたときには、水を含ませた布を固く絞り、表面の汚れをふき取ってください。

## 8 故障かな？と思ったら

故障でない場合もありますので、修理を依頼される前にもう一度、以下の項目をチェックしてください。

症 状	考えられる原因	処 置
車いすがふらつく まっすぐ進まない	キャストが左右同じ高さになっていない	キャストの調整が必要です。当社にご連絡ください
	使用者の体重が片側に寄っている	体重が均等にかかるように座りなおしてください
	車いすを動かす際に片側に力が加わっている	両側にできるだけ均等に力を加えてください
	片側の足踏みブレーキを強く締め過ぎている	足踏みブレーキの調整が必要です。当社にご連絡ください
	ネジ・ナット・ボルトが締まっていない箇所がある	すべてのネジ類が締まっているか確認してください。ゆるんでいる箇所があれば、当社にご連絡ください
車いすが重く 操作しづらい	キャストが左右同じ高さになっていない	キャストの調整が必要です。当社にご連絡ください
	キャストに埃などが巻き付いている	キャストを手で回転させて、巻きついているものを取り除いてください
	キャストに体重がかかり過ぎるなどバランスが悪くなっている	全体的な調整が必要です。当社にご連絡ください
	足踏みブレーキがかかっている	足踏みブレーキを解除してください
足踏みブレーキ、 駐車用ブレーキが 利かない	主輪が磨耗している	主輪の交換が必要です。当社にご連絡ください
	ブレーキパッドが主輪に当たっていない	足踏みブレーキの調整が必要です。当社にご連絡ください
	主輪とブレーキパッドの間に障害物がある	障害物を取り除いてください
キャストがガタつく	キャストが左右同じ高さになっていない	キャストのクイックリリースが外れていないか確認してください
	キャストに体重がかかり過ぎるなどバランスが悪くなっている	全体的な調整が必要です。当社にご連絡ください

※チェックをしても正常に使用できない場合、または破損や異常を発見した場合はすぐに使用を中止して、当社にご連絡ください

# 9仕様

※下記寸法はバックサポート、ヘッドサポート、専用クッションを含まない寸法です

製品名	アクトモア ネットィ ビジョン		
本体外形寸法 (全長×全幅×全高)	87.5×55×91~95cm		
座 幅	40cm		
座奥行き	35~42.5cm (無段階調節)		
前座高 ※床面から座面までの高さ	38.5cm		
背もたれ角度調整 (リクライニング機構)	90~110度		
座面角度調整 (ティルト機構)	前傾2~後傾30度		
アームサポート高 ※座面からの高さ	0cm、18~34cm (8段階調整)		
フットサポート・シート間距離 ※床面より5cm空けた状態での高さ	27~32cm (エレベーター角度：90度)		
	49~62cm (エレベーター角度：170度)		
ヘッドサポート	寸法	標準仕様	Dタイプ (枕形状)：幅27×高さ15cm (専用カバー付き)
		オプション	Aタイプ (コの字形状)：幅30×高さ18cm Cタイプ (ワイド形状)：幅37×高さ15.5cm
	調整範囲	左右8cm、前後10.5cm、上下30cm、全方向30度回転	
折りたたみ幅	28cm		
重 量	約28.0kg		
キャスト径	6インチ (ノンパンクタイヤ)		
主輪径	16インチ (ノンパンクタイヤ)		
使用者最大体重 (積載物も含む)	100kg		
標準装備	足踏みブレーキ、駐車用ブレーキ、専用クッション、 転倒防止バー (ティッピングレバー)		

■製品の仕様は予告なしに変更することがあります。あらかじめご了承ください。

## 株式会社フロンティア

フクシのこトハ

フリー  
コール **0120-294-518**

千葉本社 福祉本部 〒261-0002  
千葉県千葉市美浜区新港 42-4  
TEL. 043-301-8338



### ●アフターサービスのお問い合わせ

取扱店